

家紋下り藤

蛇ノ目

藤原姓

加藤

高百二十五俵

俵五人扶持

川邊大臣魚名公ら出加藤豊後守重光
後胤遠江國住人加藤監物重俱養子
葛山備中守勝嘉弟弥三郎貞嘉長男

加藤三右衛門

重貞

遠州宇豆山に於て小原肥後守麾下加藤
監物道德入道養子となり遠州宇豆山
没落之刻駿州よりの筋目御存し遊され
しにより御陣所に於て榊原小平太取次
を以て

東照宮へ拝謁し直に奉仕すへきの命を蒙

り三州角崎大海村等をいて永八拾貫

の知行を賜はり榊原小平太組にて奉仕

○天正年中加藤辰之助いふと者甲州へ内通

せしにより安松矢之助加藤三右衛門兩人

にて討へき旨命せられ討留し褒美

として矢之助へ平安城長吉の御腰物を

賜はる三右衛門へは辰之助所持の牛切兼光

といふ刀褒美としてあとふへき命を

蒙り三右衛門に賜はる○天正十二申年四月

九日長久手御合戦の刻戦死四十二歳

重政

加藤三右衛門

長久手御陣屋にて榊原小平太取次に
て

東照宮へ初見家督○天正十八寅年関東

御入國の刻榊原式部大輔館林の城賜はり

し時小人数により手附の者小田原御陣所

より直に館林へ赴き家臣となる○死五十

一歳

△父、家督榊原

康政、方二有暇一故

浪人寛文九年

△

某

作兵衛

重敬

実二男

加藤仁兵衛

元和亥年御徒へ召出され廩米七十俵

五人扶持○寛永十八巳年御徒目付○加秩

三十俵○寛文九酉年十一月三日御鳥見

○延宝四辰年六月八日致仕○同八申年

八月七日死駒込蓮光寺に葬る

以下略